

として今年の一月に来日しました。四月より大学院博士課程に入学し、分子生理学分野の富澤教授の指導の下、研究を行っていました。まだあまり日本語がしゃべれないので何かと不便はありますが、熊本多くのの方々の援助によりまして充実した研究生活をおくっています。二〇〇八年に父が亡くなり、また母も糖尿病で入院していますので、本国からの仕送りはありません。本奨学金を交付していただきまして、本当に助かっています。研究に集中できることを嬉しく思います。

研究題目は、「ヒトtRNA修飾の網羅的解析と同修飾酵素CK2RAP1の生理機能」であります。これまで、細菌、酵母でしか知られていなかったtRNA修飾がヒトにも存在し、翻訳調節に重要であることを明らかにする研究を行っています。また、その破綻が糖尿病やミトコンドリア脳筋症などの疾患の原因になることを証明したいと考えております。

熊本大学で一生懸命、勉学・研究に励んで、本奨学生として恥ずかしくないよう頑張りたいと思います。

末筆ながら、肥後医育振興会会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



熊本大学大学院医学教育部  
研究生(中国)

趙 春

この度、肥後医育振興会医学研究助成金をいただきました。誠にありがとうございます。

分子病理学分野の趙睿です。私は小さい時から、西洋医学に対して大きい興味を持っていました。その原因で、中国の西洋医科大学に入学しました。大学卒業後、医学知識の不足を感じました。日本の医学技術は世界で有名です。私は世界の最先端な医学を習って、できるだけ多くの人間をたすけるために、それから、人間の健康を守るために、日本に留学にきました。今、私は博士一年で、分子病理学分野で勉強しております。研究テーマは「赤血球造血におけるS19リボソームタンパク質二量体とC5a受容体の役割」です。

私は私費留学生として、生活費や授業料など、経済的な困難があります。勉強をやっていくために、どうすれば生活費や学費を捻出できるかが一番大変なことになっていきます。今度の助成金をいただきまして、本当に助かりました。誠にありがとうございます。誠に一杯努力して、先端医学を勉強したいと思えます。卒業後も、日本と中国の友好関係を保つために努力したいと思えます。



熊本大学大学院医学教育部  
博士課程2年(中国)

蘇 宇

私は病態情報解析分野、博士二年生の蘇宇です。この度、助成金をいただきました。ありがとうございます。

今、安東教授の指導下で、アミロイ

ドーシスについて研究しています。アミロイドーシスとは、通常は可溶性である蛋白質がさまざまな原因によりアミロイドと呼ばれる繊維状の物質に変性し、細胞外に沈着する疾患群である。現在までに免疫グロブリンL鎖、血清アミロイドA、トランスサイレチン(TTR)など、二十種類以上の蛋白質がアミロイド前駆蛋白として固定されている。トランスサイレチン関連家族性アミロイドポリニューロパチン(FAP)は、アミロイドーシスの一種類である、変異を起こした異型トランスサイレチンがアミロイドを形成し、種々の臓器に沈着する常染色体優性遺伝を示す難病である。ポルトガル、スウェーデン、日本など世界各地で患者が確認されてきているが、日本では熊本県、長野県に集積地があることも報告されました。

トランスサイレチンは主に肝臓から産生されるが、脳脈絡叢、眼の網膜色素上皮、膵臓の細胞からも産生されます。通常、四量体にはT4が強く結合して、まだビタミンA輸送蛋白であるレチノール結合蛋白と結合して血中での運搬を担っています。今回、私たちは膵臓から産生されるTTRに注目し、TTRの新たな機能を解析しています。近年、膵臓の細胞でTTRはグルカゴンと共局在していることが報告されました。しかし、TTRは膵臓の細胞での役割がまだわかっていないことから、TTRノックアウトマウスを用いて、グルカゴンの発現、コン

テンツと分泌を中心に研究を行っています。実験の結果による、TTRがグルカゴンの発現、コンテンツ、分泌と関連していることを示唆されました。これから本研究について、データを明確にすると思えます。

これから、私は研究の興味を持って、もっと頑張りたいと思います。



熊本大学大学院医学教育部  
博士課程2年(中国)

田 哲

この度、肥後医育振興会から外国人留学生奨学金を頂き、誠に心から感謝しております。

私は二〇〇九年四月入学して、心臓血管外科に所属し分子遺伝学で勉強と研究をしています。

近年、急速な食生活の欧米化の流れとともに脳心血管障害の患者は急増しており、その原因となる動脈硬化の予防、抑制が世界中の多くの研究者に重視されている。動脈硬化を引き起こす危険因子は主に生活習慣の変化が言われているが、そのメカニズムの詳細な遺伝子の作用機構については十分に解明されていないから、これは先進国における大変重要な課題となっている。動脈硬化予防及び治療法を探すために動脈硬化に関する遺伝子の研究は大変重要であると考えられています。私は動脈硬化のメカニズムに大変興味があり、血管周囲の脂肪組織における動脈硬化の影響というテーマについて